

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-830	14-015	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Alcohol consumption and survival after a breast cancer diagnosis: a literature-based meta-analysis and collaborative analysis of data for 29,239 cases. 飲酒と乳癌診断後の生存率との関連の検討：29,239 症例を含むメタ分析		
<b>執筆者</b>		
Ali AM, Schmidt MK, Bolla MK, Wang Q, Gago-Dominguez M, Castelao JE, et al.		
<b>掲載誌</b>		
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2014 Jun;23(6):934-45. doi: 10.1158/1055-9965.EPI-13-0901.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、乳癌、死亡率、エストロゲン受容体		24636975
<b>要 旨</b>		
<b>背景：</b> 飲酒と乳癌診断後の予後との関連については一致した結果が得られていない。個人ベースのメタ分析により、この関連について検討することを目的とする。		
<b>方法：</b> Medline を用いて 2013 年 1 月までに報告された 11 の研究（対象者は女性のみ）について個人ベースでのメタ分析を行った。Cox 比例ハザードモデルを用いて非飲酒者と比較して中等度飲酒者におけるハザード比 HR（および 95%信頼区間 CI）を検討した。		
<b>結果：</b> 乳癌診断後の中等度飲酒は乳癌診断後の生存率と関連しなかった（HR 0.95, 95%CI 0.85-1.05）が、診断前の飲酒は予後の改善と関連していた（HR 0.80, 95%CI 0.73-0.88）。エストロゲン受容体に関する検討が可能な 29,239 人（内 4,839 人死亡）について個人ベースのメタ分析を実施した。エストロゲン受容体陽性の乳癌については、診断前後の飲酒は乳癌死亡とほとんど関連していなかった。一つの研究でエストロゲン受容体陰性乳癌について検討可能であった。その結果、診断後の飲酒は乳癌死亡リスクのわずかな低減と関連していたが、診断前の飲酒とは関連を認めなかった。		
<b>結語：</b> 特に女性のエストロゲン受容体陰性乳癌について、乳癌診断後の中等度飲酒は乳癌死亡リスクの軽度低下と関連していた。また、女性の全乳癌について、乳癌診断後の中等度飲酒は予後の悪化とは関連がないようである。		